平成 29 年 8 月 26 日発行

大町山岳博物館友の会　第　172　号

ゆきつばき通信

【企画展】

市立大町山岳博物館/大町登山案内人組合創立 100 周年記念事業実行委員会 共同企画展

北アルプスの百年 百瀬慎太郎と登山案内人たち

《期　日》　2017 年 8 月 5 日(土)～11 月 26 日(日)

《場　所》　市立大町山岳博物館 特別展示室

標記の企画展が始まり、8 月 5 日にはオープニングセレモニー、ミュージアムトークの初回が行われました。

開催にあたり、牛越市長より大町に起こった登山ブームから安全な登山に向けた活動を含めてご挨拶がありました。また、大町登山案内人組合長であり、100 周年記念事業実行委員会の会長である狩野正明さんからは、歴史と文化のある岳の町を今後の 100 年にさらに伝えていく意気込みが語られました。

ミュージアムトークでは関学芸員より大正登山ブームから案内人組合が組織化されていったこと、案内人と登山者の絆が培われていったことなどが、展示を通して説明されました。展示には大町を紹介する地理や現在の観光も紹介されています。

さらに、組合事務局長の遠山充さんと狩野会長から会の活動や山の様子などをお話いただきました。活動には登山道整備や遭難防止対策協会としての活動もあり、体力に合わせて安全に山を楽しんでほしいとお話がありました。「山での一番のごちそうは天気」とはガイド経験を通してのお話でした。

ミュージアムトークは 9 月 17 日(日)　10 月 7 日(土)　11 月 3 日(金・祝)にもそれぞれ午前 10 時から、午後 2 時からの 2 回行われます。また、実行委員会では、トークショーや様々な体験が楽しめる「信濃大町 山フェス 北アルプス 100 年祭」を 9 月 30 日、10 月 1 日に大町市文化会館周辺などで開催し、11 月 17 日には記念式典が開催

されます。

ミュージアムトークのようす

（編集担当　記）

［ご案内］

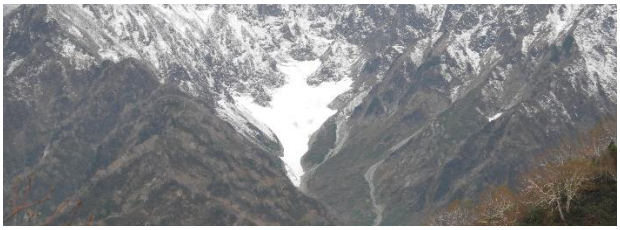
【主催　市立大町山岳博物館　共催　長野県山岳総合センター・大町山岳博物館友の会
協力　株式会社 五竜（白馬五竜高山植物園）】

鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓（氷河）調査団員は語る

「秘境　カクネ里とは」

カクネ里とはどのような特徴また魅力を持つのか、元鹿島槍ケ岳カクネ里雪渓（氷河）総合学術調査団員からお話を聞いてみましょう。

《期　　日》　9 月 23 日（土）　午後 7 時～8 時 30 分　※開場 午後 6 時 30 分
《場　　所》　山岳博物館　講堂
《対　　象》　一般
《募集人員》　50 名（定員になり次第締め切ります）
《講　　師》　福井幸太郎さん（富山県立山カルデラ砂防博物館）
《参 加 費》　無料
《持 ち 物》　筆記用具、個人で必要なもの
《申し込み》　8 月 1 日より　電話・FAX または直接、友の会事務局へ
（Tel/Fax0261-23-6334）



備考　**関連事業**　**エクスカーション**

カクネ里を遠望しに小遠見山へトレッキングします。前日の講演会（事前学習）への出席が参加条件になります。小遠見山からカクネ里を眺めましょう。

期　　日　9 月 24 日（日）　午前 8 時～午後 4 時　※天候により中止あり
場　　所　五竜遠見スキー場（集合）～小遠見～五竜遠見スキー場
対　　象　講演会参加者（講演会申し込み時の希望者先着 30 名）
参 加 費　大人 2,500 円（資料代・保険料等）
持 ち 物　昼食、非常食、雨具、防寒具等を含む登山装備一式

※エクスカーションのみの参加はできません。
※ゴンドラ・リフト代等は別途実費。各自で販売窓口でお支払いください。
※保険加入後のキャンセルは、保険料 500 円をお支払いください。
※9 月 23 日（土）に山岳総合センターへ宿泊を希望される方は、宿泊費 1,500 円（税込）を宿泊時にセンターへお支払いください。（食事・風呂なし　ただし、冷蔵庫・電子レンジ・ポットは利用可）

【山岳博物館・友の会共催事業】

木崎湖　冬のバードウォッチング

冬季は湖や河川に多くのカモ類など水辺の鳥が集まり、林の中は落葉により木々の枝にとまっている小鳥たちの姿を見つけやすく、バードウォッチングに適した季節です。野鳥観察をとおして、身近な自然に親しんでみましょう。

《期　　日》　11 月 19 日（日）　午前 9 時 30 分～正午　小雨決行
《場　　所》　木崎湖　（集合解散　ゆ～ぷる木崎湖駐車場）
《対　　象》　子ども～大人（ゆ～ぷる木崎湖から稲尾駅を往復できる方）
《募集人員》　20 名（定員になり次第、締め切り）
《講　　師》　腰原正己さん　鳥羽悦男さん
《参 加 費》　一般：500 円　会員：無料
《持 ち 物》　筆記用具、雨具、防寒具、観察道具（双眼鏡などある方）、飲み物やおやつなど軽食、リュックサック、個人で必要なもの
《申し込み》　10 月 1 日より　電話・FAX または直接、友の会事務局へ（Tel/Fax0261-23-6334）

【報告】

7月9日　友の会研修

「野尻湖ナウマンゾウ博物館と妙高高原ビジターセンター」見学

難 波 淑 子

野尻湖畔に立ち寄った事はあったものの、この館を訪れたのは初めてでした。圧倒されたのは、発掘されたナウマンゾウの骨や歯以上に，地層の模様に目が奪われた事でした。壁一面の地層は微妙に色が変わり、ところどころには濃い色のアクセント、オークル系の色調はなんとも魅力的で、氷河期をのりこえ火山の爆発を重ねたにもかかわらず、ながい時間をかけて何ごともなかったように層をなし、おさまって見えました。数ミリきざみの地層の中に、どれ程の生命が生まれ死んでいったのだろう。想像するだけで気持ちが高揚し壮大な宇宙の中のたったひとつの地球の姿をえがきました。

ところで「野尻湖人」と名付けられた人々の生きた証～石器～は掘りおこされてはいたものの、人は本当にナウマンゾウと戦ったのだろうか？妄想癖のある私の頭の中には様々な不思議が、まるで夏休み子供相談室の質問児童のように次々と涌きおこりました。あの大木を輪切りにしたようなナウマンゾウの足跡に人々が小さな石器をもって戦い挑んだのだろうか？そして食べることを目的としていたのだろうか？人の歯からみるとどうなのだろうか？現代人のサイズではなく、いつか中国奥地で見つかった大男だったのではと、様々に考えが浮かぶ。

ナウマンゾウが生きるために（子孫を残す、生命維持）互いに戦い倒れたそのゾウさんを、人間がチャッカリきざんでいたのかもしれない。だいたいあの大型でぶ厚い皮膚をどのようにはぎ取るというのだろう？案外他の動物が食べ残したものを、さらに小さく石器で切り分け食べることは可能であろう、などと・・・。（私なら、さしずめ草や根、実、貝 etc、手っとり早いものを食料にし、楽に生きるかも）

地層となった岩、石、砂、植物、動物、貝 etc、この中に生命はまぶされ、ふるい落とされ、時代の環境にふさわしい種と形になり進化と変化が今もなお続いているのではと思いつつ、我に返る。左脳の機能不全である身には、野尻湖博物館はとても刺激的でした。

午後からは妙高高原ビジターセンターを訪れ、池の平いもり池を約１周。館長さんの説明一言一言に現実味が増し、生き続けるとは変化することなのではと、一挙に目

の前がスッキリ、シャープに見え始め、夢を追い求める自由さと、一方、足元の現実を踏みしめ、一歩を確かめる大事さを気づかされた一日となりました。

この数日、野尻湖人に想いを馳せているとひとつの詩に出合いました。

茨木のり子　“食卓に珈琲の匂い流れ”　より

問い

人類は
もうどうしようもない老いぼれでしょうか
それとも
まだとびきりの若さでしょうか
誰にも
答えられそうにない
問い
ものすべて始まりがあれば終りがある
わたしたちは
いまいったいどのあたり？
颯颯（さつさつ）の
初夏（はつなつ）の風よ

追記

途中、矢野先生、清水副館長から地質や断層、大町の旧石器などのご説明を頂きました。丸山さんからは学術的な資料を整えて手元に配られました。また、復路、決して若くない皆さんを元気付けて下さった有川さんのおもてなしと、皆様に感謝いたします。おいしいおやつの差し入れごちそうさま。

7 月 20 日

妙高高原ビジターセンター前にて

烏帽子の会

活 動 報 告　池田陸郷山桜トレッキング　風　塩　峠

《月日》5 月 14 日（日）　　《天気》晴れ　《参加者》14 名

《コース状況：その他周辺情報》

長野県北信地域を中心とする『山中往来ルート図』が平成 26 年古道・塩の道を歩く - 14 -（最終回）で講師の相沢先生から紹介された。風塩峠は糸魚川から上田に海の幸を運んだ古道になっている。昭和 50 年代頃まで池田町陸郷地域住民の生活道路になっていた。花見地区峠入口から花見林道までの間、赤松の松くい虫被害もありここ数年廃道状態になって、倒木、下草が生い茂り歩きにくい道であったが、かつての生活道路の面影が所々に垣間見られた。林道から峠までは、マウンテンバイクのコースにもなっていて緑のトンネルを草木の観察しながらゆっくり歩けた。峠からは地盤の脆い尾根道を少々緊張しながら歩く。再び花見林道に出る。その先は車道、山道を歩いた。登波離橋～二本松まではアルプス、大町、更科、東信、美ヶ原各方面の山並みを見ることが出来た。近年、桜仙峡と呼ばれている風景を豊盛地区の皆さんが整備された癒しのスポット、豊盛公民館前から桜の季節を思いながら眺望を楽しんだ。風塩峠入口の日向地区の集落から夢農場までいままで使われていた農作業道を歩いた。草丈は伸びていたが歩きやすい道であった。

《感想》

昨日の雨も上がりアルプスに薄い雲がかかっていたが、五月晴れの新緑の中をさわやかに楽しく歩くことができた。明治 11 年に池田にはじめて来た外国人アーネスト・サトウが峠からアルプスをみた情景に思いを馳せたり、生活道路であった当時を、地元の知識豊富な中山さんのお話に聞き入った。ウワズミザクラの花が咲いており、陸郷地区の山桜にまつわる説明もして頂いた。ヤマツツジが山肌を染めていたが、尾根

付近ではレンゲツツジ、ミツバツツジの仲間の花もみられた。林道に出る手前の尾根、西斜面一帯にイワカガミの群生、シュンラン、ギンラン、チゴユリ、ヒトリシズカ、マムシグサ等の花が楽しめた。林道沿い、いやしのスポットの斜面では日本のたんぽぽの多さに感心した。

昼食は昔から花見の宴をしていたという二本松で焼き肉、焼きそばに舌鼓を打った。14 人の参加者で 4kg のお肉、焼きそばを完食、平均年齢 70 歳とは思えない食欲は、まだまだ元気に山登りする事が出来る証し。食後は中山さんが入れて下さったコーヒーを飲みながら東屋の下で総会をした。今年も安全に楽しい例会登山が出来ることでしょう。

帰路は路傍の山菜摘みをしながら・・・。夕食の食卓に山菜料理が並んだことでしょう。

《コースタイム》

池田道の駅集合 8：30～花見神社～風塩峠入口 9：00～風塩峠 9：30 出発 10：00～白駒城跡 10：30～登波離橋～二本松 11：30 昼食・総会 13：00～癒しのスポット～豊盛公民館 13：40～日向地区 14：00～林道～夢農場駐車場着 14：50～池田道の駅 15：10

活動報告　烏帽子岳

《月日》8 月 4～5 日（金～土）　　《天気》曇時々晴れ　《参加者》7 名

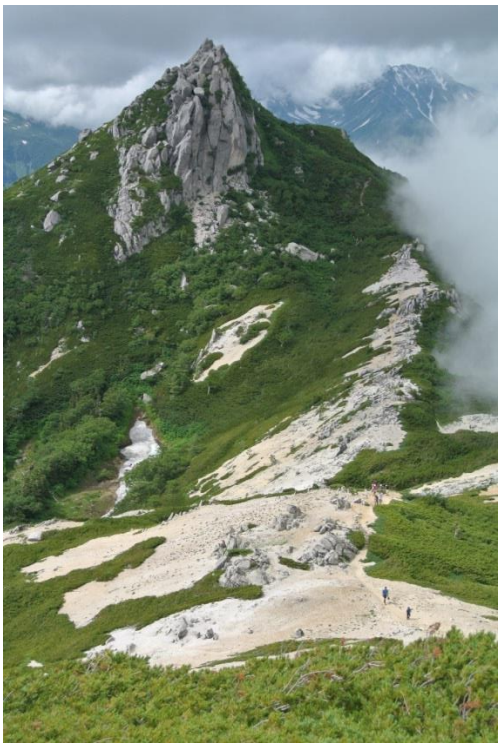
《コース状況：その他周辺情報》

８月の夏山シーズンということで土日は避けて、烏帽子の会では初めて金曜日・土曜日の山行になりましたが、すでに駐車場にはかなりの車が止まっていてタクシーを待つ人の列もできていました。タクシーはバンバン来て、私たちの前に９人乗りのタクシーが来たのであっという間に人がいなくなり、トイレに行っていた人が焦ってかえってきてスムーズにダムまで行けました。ダムに着いた時には気温が平地と違ってかなり低く寒く感じましたが、登り始めたらこんなに汗をかいたことがないくらい汗をかきました。でもまだ曇っていたのでこれでも良かった方ではないかと思います。今年は雪が多かったそうで、小屋の周辺にはイワギキョウ・コマクサ・チングルマなどお花がいっぱい咲いていました。また登山道ではアサギマダラがいっぱい飛んでいました。

《感想》

今回は「烏帽子の会」発足のきっかけとなった烏帽子岳に16年ぶりに「烏帽子の会」としては初めて行きました。16年前は倉科さんを隊長として晴天の中日本三大急登のブナ立尾根を楽しく登った記憶があり、また烏帽子小屋から烏帽子岳までも空身で難なく行けた記憶がありましたが、16年たった今、やっとの思いで小屋まで着き、小屋から烏帽子岳までってこんなに遠かったっけ？という感じでした。ただやはり山頂はスリリングでやっぱり来てよかったな～、と思いました。お天気もなんとかもって烏帽子岳山頂からの景色も楽しめましたが、私たちが下山を始めるころにはガスが上がってきてすぐに烏帽子岳は見えなくなりました。夜には雨になるかと思っていましたが星空が見えたそうです。

翌朝、雲は多かったがご来光も望めました。また赤牛岳に映る烏帽子岳の影もはっきりと見えました。遠くに八ヶ岳や燕岳・有明山・煙をもくもくあげている浅間山もはっきりと見ることができ、小屋からは薬師岳のカールも間近にみることができました。烏帽子小屋では、16年前と変わらず私たちをもてなしてくださり、食事のときの飲み物もサービスしてくださいました。スタッフの方たちもとても感じが良く気持ちよく過ごすことができました。本当にありがとうございました。「烏帽子の会」の20周年にはまた来たいね！と言いつつ、そのころには平均年齢がいくつになっているのかな～？



私事ではありますが、8月4日は私の還暦の誕生日でした。小屋で皆さまにお祝いしていただいて記憶に残る誕生日になりました。ありがとうございました！！

《コースタイム》

（１日目）大町市役所５：30 集合～高瀬ダム６：20～ブナ立尾根登山口７：00～三角点 11：10 烏帽子小屋 13：20・小屋で受付を済ませ荷物を置いて 13：50 烏帽子岳を目指し出発山頂分岐 14：34～烏帽子岳 15：17～烏帽子小屋 16：23（２日目）烏帽子小屋７：00～三角点８：18～ブナ立尾根登山口 11：22～高瀬ダム 11：50 七倉山荘にてお風呂に入り昼食大町市役所 14：00 着

今後の山行予定

10 月・・飯盛山　　11 月・・尼厳妙山（アマカザリヤマ）
１月・・安曇野国定公園スノーシュー　　３月・・黒斑山スノーシュー

花めぐり紀行

活 動 報 告　花めぐり紀行 11ーササユリ自生地（松川町）をめぐる

《月日》６月 18 日（日）
《コース状況・情報》
　現地へ下見に行ったところ、ササユリの個体数が激減して、わずかに見られるだけとの報告であったから中止としました。

活 動 報 告　さんぱくこども夏期だいがくへの協力

《月日》８月３日（木）
《内容》
　今年は「雑草・雑木で和菓子と楊枝をつくろう」と題して開催され、当サークルとしては、植物さく葉標本整理のお手伝いに続く協力となります。

　担当の千葉学芸員によれば、和菓子の材料にはクズを使用するとのことで、事前のクズの根掘りは雨のなか奮闘し、大きい？根を掘り出すことができました。ただし、実際に葛粉にするときには、養分を蓄えた晩秋以降の根を掘り出して使うため、この度は子どもたちに見せるだけでしたが、どのような形をしているのかよく理解してもらえたと思います。
　楊枝にはオオバクロモジを使いました。付属園で実際に観察をして、匂いをかぎま

した。良い香りという子もいれば、臭いという子もいました。加工は、刃物の使い方を含めメンバーとちょうど学芸員実習（博物館実習）にきていた大学生とで行いました。

出来栄えは、写真の通りです。美味しそうでしょ！メンバーの指導が良かったのでしょう失敗もせず？　子どもたちは自分たちで作った葛餅を我先にと御代りをし、その笑顔にメンバー一同大満足。

自作の楊枝も各家庭にお持ち帰りいただき、おそらく使用する度に博物館での経験を思い出してくれるものと思われます。

この度の事業を通して、子どもたちが野外に出る楽しみを知り、山博に親しみをもっていただけたことでしょう。

活 動 報 告　　さく葉標本づくり講習会

《月日》5 月 21（日）・7 月 1 日（土）・8 月 6 日（日）

もし、一般の方でも簡単にさく葉標本をつくれるとしたら、地域の自然をもっと多くの方の目を通して見ていくことができることでしょう。そうしたら、自然の変化を捉えることができたり、情報を博物館等に蓄積したりすることが期待できます。

情報には証拠（標本）があるとより信憑性が増しますよね。でも標本づくりは専門家の

みが行うことで、一般にはハードルが高いと思っていませんか。じつは、ちょっとしたコツでなんと！わたしたちにも美しい標本ができてしまうのです。

そんなさく葉標本の作り方を、国版レッドリスト改訂長野県主任調査員の藤田淳一さんを講師に招き開催され、当サークルメンバーにも呼びかけられました。

これまでに草本、木本、湿性植物の押し方を経験しました。今後も山博の行う収集保管事業に多方面にわたり貢献できるよう経験を重ねたいと思います。

ボランティアサークル

ボランティアサークルを中心に行った研修は、難波さんに報告いただいた通りです。友の会として各施設に連絡したせいか、みっちり充実した研修にしていただきました。参加された皆さまお疲れさまでした。

参加したボランティアの一言感想

勉強になった。若いころ、冬にしか行ってなかったところで、懐かしい。／ナウマンゾウは名前を聞いていただけだったが、発掘のことも知って熱意を感じた。今後も山博解説をがんばりたい。／初めて行った。ナウマンゾウのいたころのことが分かった。／日本中でナウマンゾウがいたことを知った。発掘にも参加してみたい。／ナウマンゾウは野尻湖固有と思っていた。発掘に全国から参加していることを知った。／情熱を感じた。／名前だけだったナウマンゾウに触れた。大人が目を輝かせること、ワクワク感が伝わった。／脈々とつながっている発掘で、子どもたちも参加していることは素晴らしい。友の会同士の交流にもなった。／団体研究が行われている。目玉商品があって、いつまでも勉強が続いている。

ボランティアの会を中心に山の子村で蝶の捕獲観察を行っています。一昨年の観察を補完するものです。二週間ごとに行っていますが、毎回蝶の種類が違って勉強になります。

〈投稿〉

小八郎岳（1470m）と烏帽子ヶ岳（2195m）の登山

丸山優子

松川町の烏帽子ヶ岳をご存知でしょうか？松川インターを降りて鳩打峠というところから登る。今回、伊那とも縁の深い有川さんが地元のお友達（入野さん）を誘っていただき、初めての中央アルプスの烏帽子ヶ岳（片桐烏帽子）に行ってきた。小八郎岳のササユリの下見も兼ねていた。

登り始めると自分の背丈ほどのササが今日一斉に開花したようで、ササの花粉症だったら今夜は鼻づまりなどえらいことになるなとちょっと恐怖におののきながら、時々息を止めた。なんとササの花は60年に一度しか咲かないとのこと。そこを抜けると歩きやすい気持ちの良い山道。ギンリョウソウがたくさん咲いていた。赤いウツギの花もきれい。

6合目あたりで左側が開け烏帽子山頂が見えた。7合目で飯島ルートと合流するが、そこにあと1時間40分との標識あり。その上あたりからは崩落地で斜めに傾いた地層がむき出しになっているところを見ながら通る。のぞくなと書いてあるが下をのぞくと石灰色の谷。ちょっと足が震える。しばらく歩いたところで振り向くと真っ白な岩山だった。

8合目あたりまでは変化にとんだ登山道で伊那山脈、南アルプスが時々現れる。そこから先はつらいつらい登り。木の根っこがむき出しになってその間を登っていく。ピンクの濃いイワカガミが時折出てきて慰めてくれる。すっかり口数も少なくなった。見上げるような大きな岩を何度も巻きながら上へ上へと進む。こんな岩に木が生えているのが不思議な光景だ。朝は快晴だったのに少しずつ雲が増えていく。上で山が見えなかったらどうしようと少し心配になる。また大きな岩場だ。なんでこんなにぼこぼこしているんだろう。ちょっとした岩登りができる上級者コースを避けて左側のふつうコースを行くが、こちらもロープや鎖が設置されている急な岩場。帰りにはここでちょっと迷う。

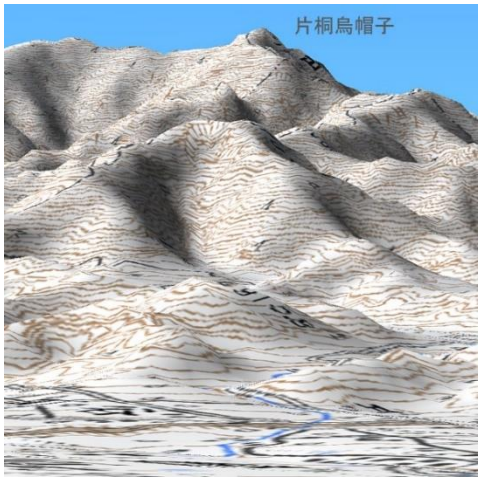
山頂の手前に烏帽子岩があり、登ってみる。270度の眺望だ。ここでも写真を撮る。この岩から降りるとき、いやー、気を抜いてリュックをひっかけたら滑落もあり得るわと思うぐらい急だった。そして目前に迫る烏帽子山頂へ。やっとのことで着いた。有川さんはもうこれで一度登ったから二度目はもういいわ！と言っていましたが、さてどうでしょう。

私にとっては久しぶりの山行でみんなに迷惑かけないようにと緊張していましたが無事登れて本当に良かった。山頂の文字通り 360 度の眺望は素晴らしく、楽しみにしてきた伊那盆地を挟んでの伊那山脈、南アルプスの山並みに目を見張った。心配していたお天気は私たちに味方してくれて、空に浮かぶ雲たちも山々を引き立ててくれた。

下山は急な岩をゆっくり降りたが、かなり太ももに負担が来た。3 合目過ぎて小八郎に寄った。目的のササユリを探した。ところが整備されているはずの山頂は荒れ果てササユリは一つも見当たらない。松川町ささゆりを守る会の看板があちこちにあったが、肝心のササユリは小八郎からの下り道にわずか 5，6 本、道脇の草むらの中に埋もれてあっただけ。本当に悲しい結果だった。しかし高貴な感じの葉で上に小さなつぼみが付いているのを見た。あまりに清楚で可憐な花なので採取されてしまったのかなあ。それにしてもひどい現状だった。

その日の宿は清流苑。素晴らしい夕食とお風呂で大満足。でも疲れていたのですぐ寝てしまった。みなさん、近くに来たらぜひ寄ってみてください。

翌日は入野さんが大瀬木自治区のカタクリ自生地を案内してくださり、そこではササユリは人の手でしっかり保護されていた。やっと見られた。でも人の手を借りないと存続できないとは、絶滅危惧種をどう捉えればいいのか考えさせられた旅だった。人に採取されたなら別ですが。今回ササユリはみられなかったが 60 年に一度というササの花がみられた。こちらの方が貴重ですかね！



鳩打峠 7：48→小八郎分岐 8：26→5 合目 9：33→7 合目 10：18→8 合目 10：55→9 合目 11：20→11：55 烏帽子ヶ岳→8 合目 13：19→7 合目 13：55→6 合目 14：04→5 合目 14：20→4 合目 14：35→3 合目 14：50→小八郎頂上 15：16→小八郎分岐 15：46→鳩打峠着 16：05

各サークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

ご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

富山市科学博物館友の会との交流会

10 月 1 日に富山市科学博物館友の会を迎えて交流会を行います。中山高原で自然観察や地層の観察を行った後、博物館で昼食と交流会を行い、友の会の案内で博物館を見学していただきます。

参加いただける方は、友の会事務局までお申し込みください（要昼食代 500 円）。集合時間、集合場所など詳細は参加者にご連絡します。

（予定）

11：00　中山高原着　火山灰層の観察　自然観察
12：15　山博到着
12：30　昼食
12：45　活動紹介（食事をしながら）
13：15　館内、付属園見学　（大人班・子供班）
14：30　喫茶売店
15：00　お見送り

ゆきつばき通信編集室より

秋の事業のご案内になります。冬のバードウォッチングも日程が決まりました。富山市科学博物館友の会との交流会もぜひご参加ください。富山の皆さんは子供が多く、私たちの気持ちがリフレッシュできるとともに、会のリフレッシュを考える糸口にもなるかと思います。来年は富山を訪れる予定でいます。

〔投稿先〕

編集部丸山アドレス　takuya-m@juno.ocn.ne.jp　（件名に「ゆきつばき通信」を付けてください）　もしくは、山岳博物館の事務局にお送りください。

（丸山卓哉）

山博ページ　http://www.omachi-sanpaku.com/

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

会費のご案内

会費振替口座番号　00550－2－24194　加入者名　山博友の会

ファミリー 4,000 円　　個人 3,500 円　　学生 2,000 円

※ファミリー会員とは、同居または扶養家族をさします。学生会員とは、小学生～大学生までをさします。
４月が年度切り替えとなっています。中途入会の場合は年度当初にさかのぼって出版物等を配布します。
賛助会員につきましてはお問い合わせください。

ゆきつばき通信　第 172 号

発行／大町山岳博物館友の会　　平成 29 年 8 月 26 日

〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334